

## 重度の精薄児も漢字は覚える

私は、言葉が覚えられない程の重度の精薄児を指導することにより、「言葉よりも漢字の方が覚え易い」といふ事を発見した。“花”といふ漢字カードを本物の花と一緒に見せて、「これは“はな”だよ。こっちは“はな”といふ字」と言って毎日毎日繰返して教へるのだが、なかなか“はな”といふ言葉を覚えてくれないのである。

然し、毎日、このやうにしているいろいろな漢字カードを実物と一緒に提示して繰返し教へてやってみたところ、漢字カードと、それに当る実物とを照応させることが出来ることに気が付き、漢字カードを子供に渡してそれに当る物に照応させることをさせて見た。すると、目を輝かせて照応させるのである。それが正しく照応できるのである。それで讃めてやると実に満足気に笑ふ。私もこれだと思って毎日これを続けた。

そんな事をしてゐる中で、漢字カードを読むやうになつたのである。“花”を“はな”、“窓”を“まど”、“黒板”を“こくばん”と言へるやうになつたのである。重度の精薄児にとっては、“はな”といふ簡単な言葉でも“は”“な”と続いて発声される音声を聴き取ることは大変難しい事なのである。また、聴いた音声をその通りに発音することは、それ以上に難しい事なのである。それに比べて、漢字は音声のやうに消えてしまふこ

とが無い。頭の中に納まるまで待つてゐてくれる。だから、覚えられるのである。それで、“花”といふ漢字カードと実物の花とを照応させることが出来るのである。

この事実から判断すれば、「漢字を識別するといふ事は、重度の精薄児にとつても、決して難しい事ではない」といふ事が判る。ところで、頭は使へば必ずその働きが向上するものであるから、漢字カードと実物とを照合させるといふ作業を毎日反復してゐれば、頭の働きは日毎に向上して行くはずである。それで、言葉が覚えられて“はな”と言へるやうになつたものに違ひない。

私はさう判断を下したのであるが、実はそれには、それ以前に次のやうな出来事があつて、それで「漢字は言葉よりも覚え易いのではないか」といふやうな予想があつての上の事であつた。